2018年度 総合政策学部FD活動報告

総合政策学部FD委員会委員　成田靖子

2017年度からのカリキュラム変更とクウォーター制度導入も２年目に入り、学生・教職員ともある程度順応できたと考える。2018年度、総合政策学部では「2018年度総合政策学部FD活動方針・活動計画」に基づき、以下のようなFD活動を展開してきた。

１）よりよい授業を提供するための取り組み

学生による授業評価

1　クウォーター毎に実施した（基本として各教員・１科目を対象とする）。

2　2017年度から授業中に実施する紙媒体回答からPORTAでの回答方式に変更があった。それにより､学生の回答は授業時間外でも回答できるようになった。

その結果としての2018年度の「学生による授業評価」各種集計について述べる。Ｑ１とＱ２のみのデータではあるが、南山大学全開講科目の設問3-14の平均評価はＱ１が4.32、Ｑ２は4.28であったのに対し、総合政策学部学科科目の同評価はＱ１が4.37、Ｑ２は4.26であり、大学全体の評価と大きな相違はなかったと考える。

また、2017年度の学生による評価の数値やコメントを参考に授業改善につながると考えて取り組んだことを以下に記す。

1　主に語学科目ではペア、グループでのインタラクティブな活動を進めるとともに、e-learning(web classも含む)を利用する課題を与えた。

2　授業時間中にリアクション・ペーパーを配付し、可能な限り学生の質問に回答してコメントや意見に応えた。

3　授業で扱う日常的な事象や時事問題は刻々変化していくが、努めて新しいデータをもとに関連性を示しながら授業を進めた。

4　今年度も各教員がoffice hoursをwebに公表し、学生の疑問や対応に答えられるようにした。

２）学部のFD企画

総合政策・社会科学研究科総合政策学専攻共同企画FD企画

日時・会場：2018年11月28日（水）15：30〜17:00　Q棟５階会議議室

企画名：「演習科目群の現状とよりよい方向へ進むための情報交換」

話題提供者　水落正明学科長

司会・進行　成田靖子FD委員

期待したほど積極的的発言は得られなかったが、各教員がそれぞれ抱える問題点を各々が新たに考えるかけとなったと考える。同FD企画参加率は総合政策学部所属教員26人のうち20人で76.9％であった。なお、2018年中に開かれた他学部開催FD企画も含む総合政策学部所属教員の出席率は86.4％となり、文部科学省が求める出席率を総合政策学部は満たすことができた。

３）政策研修プログラム（通称NAP）の開講

2018年度から、この科目は総合政策学科科目となった。夏は中国、台湾、タイ、フィリピン・韓国の５国（地域)、春はベトナム、マレーシアの２国を留学場所として開講された。旧カリキュラムでは、出発から帰国までの４週間を学生は教員とともに過ごしたが、新カリキュラムでは一部の国（地域）において、留学代行会社に委託したため教員は一部の期間の教員滞在となった。

４）講演会、外交講座等

学部主催の外交講座および学部共催の講演会等を複数回実施した。教員や学生にとって、特定のテーマについて掘り下げて考察する機会が得られ、関心領域を広げるきっかけにもなったと考える